

## 国際共通語—ババハイの視点

尊田 望

バハオラは「ケタベ・アグダス」で国際共通語の採用は「和合の元となり…調和と文明を促進する最大の手段となる」と述べておられる。しかしその国際共通語はいずれも…バハオラは、国際共通語は現存語から選ぶか、発明して採用するかどちらかを定めている。また、最初は国際補助語として採用するが、最終的には全ての人々が世界語として使用するようになることが好ましいとも述べている。ただし、このプロセスは数百年かかるかもしれない。また、共通語の採用は、世界の政府が協議するか、または万国正義院の制定により成立するとも述べている。日本社会は、まずバイリンガル社会を目指して意識的努力を始めるべきである。そのためには、バイリンガルに関する理解を深めること、同時により効果的なバイリンガル教育を進めることが不可欠となる。

### 日本のユースへのエンパワーリング（強化激励）

ジュデイス・ジョンソン

人類繁栄を達成するために日本の若者に教えるべきことと人間の普遍性を追求することは安全な未来を守るために必須である。それゆえに私達の日常生活の中で自然にこの事実を人々に知らせる方法を考案することは必要不可欠である。この発表は調和・個性・相互発達を促す重要な考え方や行動のパターンを示し、モラル・リーダーシップと道徳の講義を受講している大学生の紹介をする。一般的な教育の目的は

- 1) 生徒に現代社会やそのルールの理解について再考してもらう。
  - 2) 学生にモラル的な行動やモラル・リーダーシップを評価競争させる。そのことは統合・正義・尊敬や愛などの美徳を通じて学生の變化や成長を促すこととなる。
  - 3) 日常生活の中にあるモラル的な行動を取り入れるための具体的な方法を確認させる。
- 授業シラバス・教育の方法・生徒の例・プロジェクトやそれに対する生徒の反応について示す。